

ざだんかい

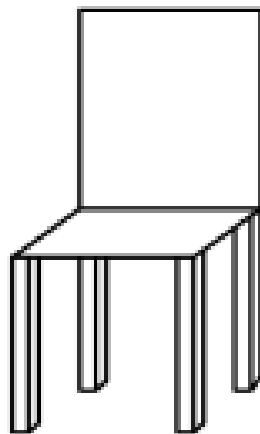
～わたしたちのふくし、これからのふくし～

Vol.2

平成 26 年 7 月 18 日(金)

17 : 15 ~ 19 : 30

@ 船橋中央公民館



ぜんかいかんそう

◎その1

「ざだんかい」は、自分も参加してお話することができたので、1つの悩みに対して複数の意見やアイデアをいただけて、とても勉強になりました。また、自分のようにキャリアの浅い方々もいらっしやったので、福祉の難しさを共感することができましたし、それと同時に悩みながら仕事をしているのは自分だけではないのだと、気持ちが楽になりました。むしろ、「福祉は悩むことから始まる！悩んで正解！」と、前向きな気持ちにさせていただきました。あくまでも、利用者さんの気持ちを第一に考えること、わかりにくいこともわかろうとすることが大切だと、改めて気づかされました。

今度の「ざだんかい」も皆さんの熱いお話しが聞けることを楽しみにしています。

社会福祉法人 さざんか会
魔法のランプ
土井 真理子

◎その2

「ふくし」って何だろう？こんな壮大なテーマを 40 名以上の様々な立場の方々と座談した前回の「ざだんかい」。私はオープニングで「もしかしてだけど…○○○じゃないの〜！！」というどぶろっくというお笑い芸人の歌ネタにのせて、その○○○に、『ふくしの仕事って「やりがいあるんじゃないの」「誇り持てるんじゃないの」』とかなりすべり気味なネタを披露させていただきました。ネタのクオリティは低かったと反省しますが、いや〜実にみなさん「誇り」と「やりがい」を持って普段お仕事をされているのだと感じました。それがこの仕事を続ける私のエネルギーとなりました。

そんな前回もっとも白熱した内容だったと感じたのが、「ふくしの仕事って特別なもの？」という議論。実に多くの方がそこに反応されていました。私も改めてどうなのだろうと感じたテーマでした。「これが答えだ」という正解は決してないのだと思いますが、最後にゲストの野澤さんが「ふくしの仕事は特別です！」と言い放ってくれたその一言が私のところに響き渡りました。「そうだよね、そうだよな！」感動し感激し共感しブルブルと鳥肌が立った、こんな嬉しい一言はありませんでした。

決して答えなんか出せない壮大なテーマだと思いますが、今回も皆で座談できるとのこと。今からワクワクしています。沢山のみなさんにつながり合いたいと思います。よろしくお願いたします。

社会福祉法人 彩会
相談支援センターいろいろ
橋本 諭

本日の問い。

前回の「ざだんかい」より

「やりがい」や「誇り」とか、どんな職種の人も持っているのに、福祉の仕事をしている人たちはそのところを自分たちだけ「特別」だと思っている人たちが多いと思う。

福祉の仕事って、そんなにも「特別」なものですか？

*そもそも、そこにある「特別」っていったいなんなのだろう？良い意味でも。悪い意味でも。

げすと

野沢 和弘（毎日新聞論説委員）

瀧本 典子（でい・まさご施設長）

熊岡 耕一（元ゆたか福祉苑施設長）

鈴木 美由紀（野田芽吹学園施設長）

渋谷 茂（長生ひなたセンター長）

しかい しんこう

鈴木 章浩（誠光園副施設長）

喜本 由美子（NPO 法人ラフト代表）

本日のながれ

- 17:00～ 受付
- 17:15～ はじまり
橋本諭さんによるあたたまる余興
- 17:25～ みんなでざだんかい (50分)
- 18:15～ 小休憩
(グループごとに輪になるために、各自で椅子を動かしてください。)
- 18:20～ ちいさくざだんかい (50分)
- 19:10～ げすとの感想
- 19:30 おわり
(お手数ですが、各自椅子をお片付けになられてからお帰り or 懇親会会場へ移動してください。)
- 20:00～22:00 懇親会
-

主催者より

本日は、お忙しいなか「ざだんかい vol.2」にご参加いただき、ありがとうございます。

3月に初めて企画した「ざだんかい」。企画した者として反省するべきところも多々ありましたが、前回参加して下さったみなさまより「第2回をやろう」とのお声をいただき、こうして再びたくさんの方々にお集まりいただき「ざだんかい vol.2」を開催できる運びとなりました。

法人も、地域も、立場も、経験も、年齢も、職種もすべてを超えて、ひとりじゃ気づけないこと、ひとりじゃわからないこと、ひとりじゃ感じられないことと向き合いながら、皆でこうして過ごせる時間に感謝します。

本日は、どうぞよろしく申し上げます。

平成 26 年 7 月 18 日
NPO 法人ラフト
理事長 喜本 由美子

☆今回の企画にあたっては、法人を超えたメンバーにお集まりいただき、打ち合わせを重ねさせていただきました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

～ごしょうかい～

げすと 野沢 和弘 さん

毎日新聞論説委員、Panda-J 副代表

1959年静岡県生まれ。1983年早稲田大学法学部卒業。

1983年毎日新聞入社。社会部副部長、夕刊編集部長などを経て2009年から論説委員（社会保障担当）。いじめ、引きこもり、薬害エイズ、児童虐待、障がい者虐待等に取り組む。元千葉県障害者差別をなくす研究会座長、社会保障審議会障害者部会委員、内閣府障害者制度改革推進会議差別禁止部会委員、厚労省今後の精神保健のあり方検討会委員など歴任。権利擁護と成年後見の情報誌「Panda-J」編集長。

主な著書に、「あの夜、君が泣いたわけ」（中央法規）、「条例のある街」（ぶどう社）、「廃墟の中の希望」「なぜ人は虐待するのか」「シカゴの夜から六本木の朝まで」「親」（Sプランニング）、「わかりやすさの本質」（NHK出版）

げすと 濱本 典子さん

- 昭和35年4月22日生まれ。54歳。
- 千葉市中央区の出身。学生時代に障害児施設での実習を通して、素晴らしい現場職員に巡り合い、この仕事を目指す。卒業後昭和59年財団法人鉄道弘済会総合福祉センター弘済学園（知的障害児・者入所施設：神奈川県）に入職。結婚・出産後退職し、専業主婦になる。退職後も福祉現場への夢が捨てきれず、チャンス待ちながら娘のPTA役員活動に励む。
- 平成13年チャンス到来。社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会「でい・さくさべ」（千葉市稲毛区）に就職。平成17年「でい・まさご」（旧知的障害者通所更生施設：現生活介護事業所：千葉市美浜区）の立ち上げと共に異動、現在に至る。
- 同業者の夫と25歳長女の3人暮らし。
- 趣味：中高年の山登り。何をするにも「まずは形から・・・」と山用品を集め、一昨年から開始。昨年は富士山に登頂。今後も体が続く限り、登りたい！

☆さんかしゃへのメッセージ☆（前回の「ざだんかい」に参加しての私の感想です。）

1) 利用者にとっての「良い支援」を求めての疑問が話し合える場でした

「悩むこと」は利用者支援を変えていく出発点です。立場が異なる方々が、日々の支援で疑問に感じていることを表明されました。「できない」「無理」との回答に繋げるのではなく「こんな風に考えたら？」の発想が道を拓くことを実感しました。

2) 指標とするものは、意見を聴いた自分自身であることを実感しました

「何年この仕事に就いているのか？」に関係なく、一人一人が意見を持ち、臨まれていることがわかりました。正解はないし、間違いもない。自分に返し、自分で考える。このサイクルができる話合いの場であることを感じました。

3) また、参加したい会でした

「次回もぜひ、参加したい！」と感じる会でした。前回懇親会時に7月の「ざだんかい」の日程が決定され、その場で手帳に予定を入れていました。

げすと 熊岡 耕一さん

略歴

19歳春、当時、田舎から東京に出るには、宇高連絡船に乗り、宇野駅から新大阪まで急行に乗り換え、さらに新幹線で東京に出るという大旅行でした。世間知らずで、何もできない男が、昼間は、病院で事務仕事をし、夜間の福祉系専修学校に通うために、上京してきました。なんの覚悟もなく、時流に流されながら、時には、多くの人達と道路を逃げるように走り、時には、ホワイトに浸り、そして時には、福祉を語り、気がつくやうに、田舎にも帰らず、知的障害福祉の中に入っていました。とはいえ、旗を立てたり、経営者の乗ってる車を止めたりするのも大好きで、その上、利用者への対応は、全く申し訳ないほど悪く、権利擁護とか、本人主体とか、地域とかの考え方からは遠い存在で、今から考えると、全く恥ずかしく、口クでもない職員だったようです。

そんな自分が、知的障害福祉をずっと続けてこられたのは、多くの利用者との関わりや多くの人たちのつながりがあったからと思っています。

出来の悪い私を支えてくれた多くの人に感謝です。

平成26年3月 (福) さざんか会 ゆたか福祉苑退職

☆さんかしゃへのメッセージ☆

知的障害を持って生活するということがどういうことだろうか。誰にも相談できずに、生き方すらわからない状態を、想像できるだろうか。私たちは、想像力を持って、彼らと共感していかなければならない。私はそう思っている。 熊岡

げすと 鈴木 美由紀 さん

所属：社会福祉法人野田芽吹会 野田芽吹学園

役職：施設長

経歴：昭和33年5月18日 千葉県野田市生まれ。

市内の小中学校を卒業後、松戸の女子高に進学。初めてボランティアを体験する。

昭和52年 淑徳大学 社会福祉学部社会福祉学科入学

保育士を目指すが大学2年生のとき、同大学研究生となり障害児教育を学ぶ。

昭和56年 野田芽吹学園職員

空きがなかったので、調理員として働く。この間、調理師免許取得

昭和58年 調理員より支援員へ 平成13年 支援員より事務員へ異動

平成15年 事務長 平成19年 施設長

☆さんかしゃへのメッセージ☆

この座談会は続けることに意義があるのではないかと考えています。

いろんな形で福祉にかかわっている人たちが集まって、語り合うこと……。

きっと素敵な時間になると思います。今回も楽しみです。

※本日残念ながら、急遽おやすみとなってしまいました。

げすと 渋沢 茂さん

所属 中核地域生活支援センター長生ひなた

■1964年12月7日千葉県市川市生まれ。以後、高座渋谷、菊名と転居。

幼少時に覚えていることは、幼稚園の卒業式で泣いたこと、小学1年生の終わりにアパートの屋上で夕陽を見たこと。小学4年～中学1年生は新潟市で暮す。そのため、雪道を転ばないで歩くのは得意。中学2年から千葉県に。バスケットをしたり、ゲボを吐くまで飲んだり、テスト休みにはいつも麻雀をしていた。

大学卒業時、バブル期の就職戦線は息苦しくて福祉な生き方をしようと思った。

■知的障害を持った子の入所施設で10年弱。入所施設の意義と限界を感じた。障害を持った子どもたちと付き合うのは楽しかった。

■地域支援の仕事を10年弱。地域で暮らす障害を持った方とご家族の暮らしの困難を痛感した。この頃から多くのご家族から教えていただいたことが地域支援の仕事の原点になっている。

■様々な方と協働することの必要性を感じて中核センターの仕事を始めた。

☆さんかしゃへのメッセージ☆

障害福祉のこと、奥深～いと思ってます。

大変で、終わりなく、楽しい！

しんこう 鈴木 章浩さん

所属 社会福祉法人 千葉福祉援護会

障害者支援施設 誠光園

■1972年5月24日 千葉県勝浦市生まれ。

■学生時代に任意で福祉施設に実習に行き、支援者を志す。現在所属する施設（旧身体障害者療護施設）に就職活動で見学をさせていただいた時の胸の熱さは今でも忘れない。縁あって平成6年入社となる。

■介護職員として入社し、その後生活相談員業務を経て現在の副施設長職に至る。

この間、平成13年から4年間は、同法人の「障害者支援施設 ローゼンヴィラ藤原」に勤務。

【誠光園】

- ・主に身体障害をお持ちの方を対象とした施設です。
- ・入所90名 短期入所10名 通所生活介護事業10名
- ・日中一時支援事業 相談支援事業も行っています。

☆さんかしゃへのメッセージ☆

前回に続いて参加できますことを心から嬉しく思っています。

参加者の皆様と、日頃なかなか口に出せないことを語り合い、思いを共有して明日からの活力にできたら幸いです。

よろしく願いいたします。